文化

ぎふ歌壇

細江　仙子選

特選

みずからを促しながら立ち上がる新聞を読み空しくなりて　（中津川市）小木曽かな江

【評】この一首につづいて「雪を積み凜（りん）として立つ木曽駒の山に向いて深呼吸する」という歌があった。この二首を共に鑑賞すると作者の内面が鮮明にみえてくる。空しくなってうつむいているのでなく、立ちあがって山を仰ぎ深呼吸をする。自らの心を奮い立たせる前向きの姿勢が生きる力の強さを感じさせる歌となった。

ひと言も話さず用件すむメール夜更けに受けしは孤独のきわみ　（岐阜市）浅見　君子

【評】ペンを持って書くことをしなくても、声を出して話をしなくても用件がすむメールはもはや特別なことでない。だが夜更けに襲う孤独をのぞいてはくれない。その結果、はてまでいってしまうのである。人間には温かい血の通った言葉や文字が必要なことをこの一首は訴えているのではないか。

老いてゆく母の身体のマッサージ触れる掌（てのひら）侘しさつかむ　（本巣市）尾崎香代子

【評】母の身体をマッサージしながら感じた手ざわりから、老いを外見だけでなく内面をも理解した歌である。「つかむ」という表現には作者が母をいとしく思う気持ちがよくでている。肉体が次第に老化してゆくだけでなく侘びしさ心細さを伴うのが老いなのである。

入選

おらが村の名が消えちまうと涙する大の男に雪降りしきる　（下呂市）亀山冨喜子

母逝きて六十四年の歳月が降る雪仰げば昨日のように　（美濃加茂市）丸山　こう

雪解けの水吸ひおらむ裸木のかすかに温（ぬく）き幹に背を寄す　（高山市）小林　昌子

北壁に青虫一四へばりつき零下の朝も孤高に生きる　（下呂市）杉原美知子

神頼みするは愚かと言ひつつも予備校生の拝礼深し　（大垣市）田中　泉

公孫樹（いちょう）は公孫樹、欅（けやき）は欅の風情もて真冬の梢（こずえ）空に拡（ひろ）がる　（南濃町）奥井　朱夏

雪かづく枝葉のあわいに七つ八つ柚子（ゆず）の黄色の珠（たま）しずもれり　（池田町）持明院タエ

わずかなる雪に残せし野兎（うさぎ）の跡追う犬の足を早めぬ　（東白川村）三戸　素水

宮川を北へと九ツ橋眺め弟を見舞う雪の如月（きさらぎ）　（高山市）下目　歌子

先立たれし友多くなりそれぞれが女の余生をひたむきに生く　（美濃加茂市）星野　初江

雑食の舌の幸せ噛（か）みしめる蜂の子鹿尾菜（ひじき）アイスに珈琲（コーヒー）　（中津川市）勝　宇美子

パソコンの画面が無事に表れて幼（おさな）がわれに「ヨカッタネ」と言う　（岐阜市）高橋　孝市

横なぐる雪傘で受けペダル漕（こ）ぐミニの女生徒若さ恐ろし　（岐阜市）伊藤　俊明

生きたしと又（また）も思いぬ風邪癒えて臥（ふし）所より見る朝のあわ雪　（岐阜市）青木　愛子

夫のない雀（すずめ）よおいでよ餌台に淋（さび）しい今日はうんとあげるよ　（美濃市）池村　和子

寒明けの空の明るさほのぼのと肺腑（はいふ）に深く春の風吸ふ　（大垣市）米山　方士

酒酌めば「真っ赤な太陽沈むんだ」卒寿が語る満鉄時代　（恵那市）春日井文康

【総評】初めての投稿者が目についた。初心者と思われる歌、手なれた歌とさまざまだったが、歌を作ってもノートにとどめ自己満足しているのでは向上しない。つづけて投稿してほしいと思う。

全体として冬季の特徴をとらえて歌にしたのが多かった。大方は冬の季節に自身の内面を反映させた歌だった。いろいろな顔を見せる冬は一首にまとめやすい季節といえよう。

選者詠

亡母（ぼ）を知る百二歳の老女逝きしこと母との接点永久に失う

《係から》24日締め切り分は細江仙子氏の選、4月14日締め切り分は小瀬洋喜氏の選。はがきに未発表作品を3首まで。1人1通。2通目以降の応募は無効になります。必ず漢字すべてに読みがなをふってください。住所、名前、電話番号を書いて、〒500・8076岐阜市司町31、朝日新聞岐阜総局「歌壇」係へ。